石川県立門前 高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 主体的な学びと進路実現を目指して、授業改善と家庭学習の習慣化を図る。	①	生徒の学習意欲の向上を目指して授業改善を図る。	教務課 教員全員	主体的に授業に取り組む生徒の割合が少ない。	【努力指標】（教員） 公開授業を年間３回以上実施する。	年間３回以上実施した教員の割合が A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	C、Dの場合、教員全体で原因を分析し、改善策を検討	教員アンケート
	②	効果的な授業改善を行うため、他教科の公開授業を参観する。（小中学校を含め、他校の公開授業参観も含む。）	教務課 教員全員	参観率は良好であるが、その後の実践には結びついていない。	【努力指標】（教員） 公開授業を３回以上参観する。	年間３回以上実施した教員の割合が A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	C、Dの場合、教員全体で原因を分析し、改善策を検討	教員アンケート
	③	授業のねらいを明確にし、学習内容の定着を図る。	教務課 教員全員	５０分の授業を集中して受けることができるように、授業の内容や方法の工夫が求められる。	【満足度指標】（生徒） 適切な指導によって学習内容が理解できた。	授業内容を理解できたと実感する生徒の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	C、Dの場合、教員全体で原因を分析し、改善策を検討	生徒アンケート
	④	ＩＣＴ機器を活用した授業を行う。	教務課 教員全員	タブレットはまだ一部教科にしか配置されていないが、ＩＣＴ機器の利用率は上がってきた。	【努力指標】（教員） プロジェクタ稼働実績を向上させる。	プロジェクタ稼働実績が A　４０％以上 B　３０％以上 C　２０％以上 D　２０％未満	C、Dの場合、教員全体で原因を分析し、改善策を検討	プロジェクタ稼働実績調査
	⑤	生徒の学習支援に関する研修会及び情報提供を行う。	教育相談課	支援を要する生徒が増えてきている。	【成果指標】（教員） 学習支援方法について理解が深まった。	学習支援方法の理解が深まった教員の割合が A　６０％以上 B　５０％以上 C　４０％以上 D　４０％未満	C、Dの場合、教育相談課を中心に、原因を分析し、改善策を検討	教員アンケート
	⑥	習熟度別授業、進路別授業、補充授業、個別指導を実施することで、個々の進路目標を達成するために必要な学力を養う。	教務課 進路指導課 学級担任 教員全体	平成２８年度は難関校を含む国公立大学合格者が７名であった。本校は、進路志望の様々な生徒が入学し、その志望割合も年度によって大きく変動する。それぞれの学年、それぞれの生徒に適した進路実現が望まれる。	【成果指標】（教員） 第１・２志望校の模試判定が向上する。	第１・２志望校の模試判定が向上した生徒が A　７０％以上 B　５０％以上 C　４０％以上 D　４０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	模試結果
	⑦	個人面談などを何度も繰り返すことによって、個々の進路希望、適性を考慮した指導を行い、家庭学習習慣の定着を図る。	学級担任 学年団 進路指導課	学習活動に意欲的になった生徒の割合は年度末の調査で６２％と前年度並みであった。	【成果指標】（生徒） 家庭学習時間が多くなった。	家庭学習時間が多くなった生徒が A　７０％以上 B　５０％以上 C　４０％以上 D　４０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート
	⑧	門高読書タイムや図書館講座を実施し、読書に集中して取り組む時間を確保することで、読書習慣を身に付けさせる。	図書課 学級担任	生徒の読書に対する姿勢はおおむね良好であるが、読書活動の意義を機会があるごとに積極的に伝え、更に読書に対する意欲を高めたい。	【成果指標】（生徒） 年３冊以上の本を読んだ。（読書タイムに読んだ本も含む。）	年３冊以上の本を読んだ生徒の割合が A　６０％以上 B　５０％以上 C　４０％以上 D　４０％未満	C、Dの場合、図書課を中心に、原因を分析し、改善策を検討	生徒アンケート

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2	規範意識や協働する意識を養い、地域に貢献する人材の育成を目指す。	① 保健委員の協力を得て、学校環境の整備と美化を行うよう努める。	保健指導課 学級担任 教員全体	年３回実施するクリーン週間や、部活動単位で行なう総持寺参道の清掃等を通して、生活環境の美化に対する意識を高めたい。	【成果指標】（生徒） 生活環境の整備、美化に努めた。	肯定的な評価をした生徒の割合が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート
		② 学校生活全般において、身だしなみを整え、挨拶や正しい言葉遣いをする。	生徒指導課 教員全体	頭髪、服装容儀や挨拶は良好であるが、更に身だしなみを整え挨拶を含めて正しい言葉遣いができるよう指導を継続して行うことが必要である。	【成果指標】（生徒） 身だしなみや言葉遣い、挨拶が良くなった。	身だしなみや言葉遣い、挨拶が良くなったと感じた生徒の割合 A　８５％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート
		③ 携帯電話等使用のルールやマナーを守る。	生徒指導課 教員全体	校地内で携帯電話を使用する生徒が若干見られるので、登校後は電源を切り、学級担任に預ける指導を継続して行い習慣づけたい。	【成果指標】（生徒） 校内での携帯電話の使用ルールを守った。	携帯電話の使用ルールを守った生徒の割合 A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート
					【成果指標】（教員） 生徒は、校内での携帯電話の使用ルールを守れている。	使用ルールを守れていると感じた教員の割合 A　８５％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	教員アンケート
			生徒指導課 総務課	使用時間・使用内容など、携帯電話等の使用のルール作りに家庭での協力を仰ぎ、学校と家庭双方で正しい使用の仕方を身に付けさせる必要がある。	【成果指標】（生徒） 家庭で携帯電話等の使用の仕方について話し合いを持たせる。	携帯電話等の使用の仕方について話し合った保護者の割合 A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	保護者アンケート
		④ 行事や諸活動に積極的に参加する。	生徒指導課 総務課	現状としては、どの活動においてもおおむね意欲的に参加しているが、より自主的な活動になるよう指導し、良好な人間関係形成や自己有用感の向上につなげたい。	【成果指標】（生徒） 行事や諸活動において、企画・運営に自主的に参加できた。	自主的に参加できた生徒が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート

重点目標		具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
３	部活動やボランティア活動を推進し、学校の活性化を図る。	①運動部は競技力を身に付けるために積極的に対外試合を行う。文化部は発表や参加の機会をとらえて、実践的な発表力や表現力を積極的に身に付ける。	生徒会 部顧問 学級担任	各部活動で積極的に対外的な活動を行っているが、各部で設定した回数や内容の目標に到達していない場合が多く、効率的に活動して競技力や表現力の質の向上を図る必要がある。	【成果指標】（生徒） 各部の目標に沿って積極的に活動する。	対外試合の質的向上の目標、参加や発表の回数の割合が Ａ　達成できたと答えた生徒が７０％以上 Ｂ　達成できたと答えた生徒が５０％以上 Ｃ　達成できたと答えた生徒が３０％以上 Ｄ　達成できたと答えた生徒が３０％未満	Ａ＋Ｂ＜７０％の場合、該当部活で原因を分析し、改善策を検討	生徒アンケート
		②ボランティア活動に積極的に参加する。	総務課 生徒会 ボランティアグループ	海岸清掃、暑中見舞い、年賀状の作成、そば作り、総持寺参道清掃、花壇作り、各種イベントへの協力などボランティアの機会は多くある。	【成果指標】（生徒） 学校行事も含めた各種ボランティア活動に年３回以上参加する。	活動に年３回以上参加した生徒の割合が Ａ　７０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　４０％以上 Ｄ　４０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート
		③ボランティア活動を通して、地域に関わる意義を感じさせる。（年賀状、清掃など。）	総務課 学級担任 ボランティアグループ	過疎化が進み、独居老人が増えている。その方々に心を込めて暑中見舞い・年賀状を書き、元気付けている。心を込めて書いている生徒は年々増えている。	【満足度指標】（生徒） ボランティア活動を通して、地域に関わる意義を感じた。（参道清掃、暑中見舞い、年賀状、清掃、地区行事の手伝いなど）	活動を通して、地域に関わる意義を感じた生徒の割合が Ａ　７０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　４０％以上 Ｄ　４０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート
		④ボランティア活動が将来の仕事を考える機会となった。	総務課 進路指導課	ボランティア活動を通じて、奉仕の精神とキャリア意識を育成する機会が必要である。	【満足度指標】（生徒） ボランティア活動が進路に結びついている。	活動が進路に結びついていると感じている生徒の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　４０％以上 Ｃ　２０％以上 Ｄ　２０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善策を検討・実施する。	生徒アンケート
４	安心･安全な学校づくりを推進する。	①いじめの早期発見・早期対応に努める。	生徒指導課	昨年度、保護者からの連絡で認知をしたケースがあった。学校における生徒の観察をより注意深く行い、アンケート調査・個別面談の機会を意図的に設けることで、早期発見のみならず、生徒との良好な関係づくりに努めたい。	【努力指標】（教員） 些細な変化も見逃さないよう、日常の生徒の観察を注意深く行い、気になる生徒に積極的に声掛けをする。	入念な生徒観察、生徒との関係づくりに努めた教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善策を検討・実施する。	教員アンケート
		②通学路の安全確保に努める。	生徒指導課 総務課	昨年度は、２人乗りなどで注意を受けた生徒が数名いた。年２回の自転車乗車マナー指導をPTA と共に行い、マナーの向上を図る。また、街頭指導では、通学路の安全を確認する視点を常に持って指導にあたりたい。	【努力目標】（教員） 生徒の安全確保のために、街頭指導を実施する。 （年間３回以上参加する）	３回以上参加した教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｃ、Ｄの場合、改善策を検討・実施する。	教員アンケート